

LCSA は、主に小学校の通常学級に在籍する児童のなかで言語・コミュニケーションに支援ニーズがある児童を対象として、指導目標の設定に役立つ下位検査別のプロフィールを明らかにします。本スケールは、児童が日常的な学習場面で求められる言語面の知識や能力について、言葉を聞いて理解する「文や文章の聴覚的理解」、言葉の土台となる「語彙や定型句の知識」、言葉による表現を対象とする「発話表現」、思考や状況理解の「柔軟性」、仮名文字の読みに関する「リテラシー」という5つの区分に分け、それぞれに対応する10の下位検査を設けています。

10の下位検査

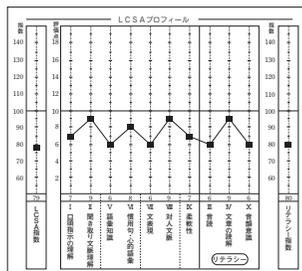
I. 口頭指示の理解	一文から成る簡単な指示を聞かせ、絵図版の指さしで答えてもらう。口頭で与えられる指示に対する理解力を評価。
II. 聞き取りによる文脈の理解	読み上げられる文章を聞いて理解し、質問に対して口頭もしくは選択肢の指さしで答えてもらう。文章に含まれる事実関係の理解や、文章から推論されることがらの理解、口頭で質問に答える表現力を評価。
III. 音読	文章を音読し、読み誤りや繰り返しの頻度と音読に要する時間の計測を行う。特に仮名文字で書かれた部分を対象として、音読の正確さと流暢性を総合的に評価。
IV. 文章の読解	音読した文章に関連する質問を行い、文章を見ながら適切な情報を探して口頭で答えてもらうことを通して、文字で表された文章の内容を読み取る力を評価。
V. 語彙知識	語彙知識の豊富さや意味理解の正確さについて、言葉の定義づけと同意語の選択、手がかりからの語の想起、動作による語意の表現といった4種類の課題を通して評価。
VI. 慣用句・心的語彙	適切な慣用句や比喩的表現を選択したり、文脈に合致した心的語彙（「うらやましい」など）を選択したりする課題で構成。
VII. 文表現	格助詞や助動詞を使って文法的な文を作ったり、文脈に照らして適切な接続詞などを選んだり、絵で表された状況を言葉で表現したりする課題を通して、言語的な表現力を評価。
VIII. 対人文脈	相手に応じた丁寧語や敬語などを用いたり、話者が伝えようとしている意図を説明したりする力を評価。
IX. 柔軟性	キーワードに関連する語彙を数多く想起する課題と、与えられた状況の原因について複数の可能性を考える課題を通して、発想の柔軟性を評価。
X. 音韻意識	仮名文字の読み書きの前提となる音韻意識を5つの課題を通して総合的に評価。

結果をまとめるためのステップ

- 1 ▶ 粗点を「LCSA 結果サマリーシート」に転記する。
- 2 ▶ 「得点換算表」を参照し、粗点を評価点に変換する。
- 3 ▶ 評価点の合計から LCSA 指数とリテラシー指数を求める。
- 4 ▶ LCSA プロフィールにグラフ化する。
- 5 ▶ LCSA プロフィールから、評価点が低く支援を要すると考えられる領域を見出す。

LCSA 結果サマリーシート

LCSA プロフィールの例



記録用紙・サマリーシート作成用ソフト「えるしー君」が学苑社 Web サイト（要 ID・パスワード）からダウンロードできます。

LCSA
プロフィールを
支援につなげる
テキスト



アセスメントにもとづく
学齢期の言語発達支援
LCSA を活用した指導の展開

大伴潔・林安紀子・橋本創一編著

B5判●定価 3080 円 (税込)

言葉に課題のある学齢児を想定し、LCSA（学齢版 言語・コミュニケーション発達スケール）を用いて明らかになる言語面のプロフィールから支援の方向づけを行い、それにもとづく指導の方法を具体的に解説。



特別支援教育図書
学苑社

Tel 03-3263-3817
Fax 03-3263-2410

info@gakuensha.co.jp
https://www.gakuensha.co.jp/

102-0071 東京都千代田区富士見 2-10-2
最寄りの書店へご注文ください 税 10%込の価格です